

平成 30 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : JAIわて花巻グループホームとどろき

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500296		
法人名	花巻農業協同組合		
事業所名	JAIわて花巻グループホームとどろき		
所在地	岩手県花巻市北笹間13-71		
自己評価作成日	平成31年1月5日	評価結果市町村受理日	平成31年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390500296-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390500296-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSi_onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成31年1月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して1年になりますが、建物は転倒しても安全なように、クッション性の高い床材を使用し、重度化を見据えリフト浴も設置、トイレは4か所とも車イス対応になってます。認知症ケアについてはまだまだ未熟で、日々努力しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、のどかな田園風景に恵まれた市西部の農村地域に立地し、JAIわて花巻の笹間支店の広い敷地内にある1ユニットのグループホームである。開設から1年を経過したばかりであるが、地域での知名度は比較的高く、ボランティアの来所や小中学生の慰問のほか、地域行事の各種案内が季節毎に入るなど、地域との円滑な関係のもとで運営されている。また、開設当初から家族会が結成され、クリスマス会には赤ちゃん連れで参加した方もあった。終末期ケアに向けた関係機関との協力体制も整い、事業所では関係者を含めた支援体制の強化を目指している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

平成 30 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : JAいわて花巻グループホームとどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で気持ちにバラつきがあり、全職員で理念を共有して実践は出来ていない。	「目くばり、気くばり、思いやり」をキーワードとした理念を事業所内に掲示し、職員の注意喚起を促している。管理者は、日々のケアに理念をどう活かすか具体策を検討中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの訪問や、地区行事に声をかけていただいたり、少しずつ交流の場が増えている。	地域における事業所への認識度は高く、JA女性部員が多彩な活動を行ったり、お茶や化粧品のボランティアが来所するなど来所者が多い。地域からは盆踊りや郷土芸能発表会の案内や招待をいただき、近隣中学校からは夏休みに吹奏楽部が、9月には学童クラブの子供たちが8名来所した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新田アドバイザーが地域に出向いて、研修講師を務めるいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中では話し合われているが、職員には報告していない。	事業所の事業や課題と利用者の状況について話し合いが行われ、記録係に職員が参加し、議事録は職員にも回覧している。近隣に駐在所もあり、今後は、不審者の相談や避難訓練等を通じ、関係機関との関係拡大を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所の地域福祉課、包括支援センターに相談させていただいております。	市の担当課とは、事業所の開設や実地指導で指導助言を受けている。また、緊急で空き状況の照会を受けることもあるが、認定更新時の代行申請等で窓口に出向く機会は減った。西部包括支援センター主催のふれあい会議の案内には、可能な範囲で出席している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で理解するようにしていますが、地域に不審者がいるため施錠することもある	身体拘束適正化検討委員会には、運営推進会議委員が兼務している。不審者の入室が開所1年で2回程あり、利用者の安全のため玄関は施錠している。スピーチロックについては、口調等に留意している。ベッド柵の必要な利用者については、家族を含めたケース会議を開催し、止むを得ず実施したことがあった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で周知するよう計画されている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	言葉としては解っていても、きちんと研修をしていないので、理解している職員は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはきちんと説明し納得したうえで、同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での内容は職員には定例会、外部の方には運営推進会議で議題にしている。	事業所開設時期に家族会を設置し、定期的開催している。毎月の請求書の文字が小さく見にくいとの意見があり翌月から改善した。面会等の際に職員に話された内容は、申し送りノートに記載し、職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会	定例会には、日中の勤務者の他、休養日でも自主的に参加する職員もある。会議時より、個々に意見や相談が出されることが多い傾向にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事課へ自己申請書により提出している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回の個別面談により研修計画を立案している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会への加入		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に自宅での初回訪問で、本人の話を傾聴してくる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回訪問で家族様からも話を聞いてくる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定のケアプラン作成のため、本人、家族、担当ケアマネジャーより情報を提供して頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務優先になることが多かったが、少しずつだが、関係ができ始めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、受診報告時などに相談させていただいてます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が来所されて面会や外出、外泊をされています。	踊りや着付グループの友人や、地域住民、教え子等の知人のほか、いとこや親戚の方々が面会に来所している。自宅や外食に定期的に外出する方もあり、昨年のお盆には2名の方が帰宅された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でトラブルになる時は、職員が間に入っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中にも面会や電話連絡をしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリング等で本人の希望を聞いている	日常の会話から思いを把握出来る利用者が殆どであるが、我慢をするタイプの利用者については、顔色や表情で体調の良し悪し等を確認している。新聞広告たたみの際、写真を見て「苺」食べたいなどと具体的に話してくれることがある。重要な内容は、申し送りノートに記録して職員間で確りと共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が全員を把握は出来ていないが、担当の利用者については努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時に合わせて職員間で申し送っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをすることで、職員それぞれ意見を出して、ケアプランに反映されています。	入居前に管理者と介護支援専門員が自宅を訪問し初回の介護計画を作成している。入居後、居室担当者と日勤職員及び管理者で、モニタリングの結果や日々の状況等を話し合い、介護支援専門員が次の介護計画案を作成して、説明可能な利用者と家族に説明と確認のうえで決定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、申し送りで何かあったらカンファレンスを行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせて、家族様と相談している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや行事等に参加するようになっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員にかかりつけ医があり、受診時には、相談している	現在協力医の恵クリニック利用者が7名、他のかかりつけ医が1名であり、受診時は家族で対応していただいている。いずれの場合も「通院・受診記録」に受診内容を記載し、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、訪看が来所され、適切なアドバイスや受診につながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療連携室と連絡を取り合う		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携により、家族様と重度化の指針について説明し同意書をいただいている。	訪問看護ステーションと医療連携の契約を締結し、週1回の健康管理体制が出来たことにより、利用者の健康管理面の充実が図られ、介護職員の安心感も広がった。家族全員が事業所での看取りを希望し、家族会として終末期ケアについての研修会を開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは整備されているが、訓練は実施していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修、訓練は行い地域の協力体制もできているが、夜間時訓練はできていない。	ハザードマップでは、水害の心配はなく、今後は火災と地震の対策に力を入れる予定である。前回の火災訓練の前に、消火器等の配置を含めた設備確認や避難路等の事前研修を行った。万が一の際に備え、JA職員や地元消防団員による協力体制が整備されており、今後は関係者も加えた夜間訓練や災害訓練を実施する予定である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには気をつけているが、職員自身なまっけて知らず知らずのうちに話していることがある。	異性ケアを嫌がる気持ちを尊重したり、経歴や出身地に配慮した声かけをすることもある。利用者のタブーな話題については、職員間で共有し面会や会話の際に留意している。日常的には、声かけやノックをしての居室への入室、トイレもある程度自立している方には、行為終了後に確認する等の対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まだまだその人の思いに気が付かず、職員が決めてしまっていることが多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務が優先されることが多いが、短時間でも希望を聞くように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人で出来る人は本人に任せ、そうでない人には声掛け等をしながら毎日できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに役割があり、職員と一緒にやっている。	毎食前に口腔体操を実施し、利用者も職員も全員で毎食会話をしながら食べている。食事前後の挨拶は、輪番制で利用者が行い、おしぼり準備や盛り付け、食器やお盆拭きの役割のほかに、昼食のサンドイッチづくりやおやつづくりは利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を確認しながら声掛け等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは実施しているが、一人きちんとできない方がいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を確認しながら、声掛け誘導をしているが、タイミングが合わない事もある。	利尿剤服用者については、他の利用者より声かけ間隔を短めにしても難しい場合もある。夜間ポータブル使用は2名、センサーマット使用は1名あり、夜勤職員は居室側中央の詰所に待機し介護している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、腹部マッサージ等を行っているが、便秘のひとは、マグミット錠や下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日は決まっているが、足浴の希望はその人に合わせている。	浴室隣りに設置されたミニ庭園を眺め、露天風呂の気分を味わい入浴ができる。状態が低下した利用者は、リフト浴により入浴している。嫌がる利用者も湯船につかると「いい湯」と話したり、歌詞の始めを唄い出すと、最後まで唄いながら入浴している利用者もいる。ゆず湯や菖蒲湯等の行事湯も用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに確認しながら休息しているし、清潔な寝具を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように2重、3重のチェックを職員全員で行っていますし、服薬変更時は申送りを徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割のある生活をしていただいているが、その日によってバラつきがみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの外出は出来ていないが、行事や散歩等で外に出掛けている。	春から秋口までは、事業所奥にあるミニ畑を利用し、野菜作りや花植え、草とりなどを行っている。雨天には、屋根のあるベランダで外気に触れることもある。行事の際には、系列デイサービスのワゴン車で花見や紅葉狩りのあとで昼食をとって事業所に戻っている。徒歩5分の食堂への外食ツアーは、利用者には好評で次年度も計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があれば話しているが、本人からは、携帯電話がある人のみですし、手紙も届いた手紙を渡すだけです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度差がないように、空調等で調整していますし、夕方は早目にカーテンを閉めています。	食堂兼談話スペースは、広々とした明るい空間で、鉢植えやみずき飾りが飾られている。並びにある12畳の小上がりには、各種慰問の際にはステージとしても活用され、冬場は炬燵が準備されている。廊下にも床暖房と加湿器が設置され、利用者は快適に過ごしている。、共有スペースのテーブルと椅子は、利用者向けに低めのものが設置され、居室側にも、ソファや応接セットが複数準備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、廊下、談話コーナーなどにソファを置き対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		広々とした各居室には、ベッドとイスが備え付けられ、好みに自由な配置がなされている。洋服掛けやミニテーブルやイス、机等を自宅から持込み、花や写真、季節毎の行事で作った壁飾りやカレンダー等が思い思いに飾られている。ご主人と息子さんを亡くされた利用者は、大切な位牌を自宅から持参されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			